

2019年3月期第1四半期 決算説明会



Money Partners Group

株式会社マネーパートナーズグループ



本資料は、株式会社マネーパートナーズグループの事業及び業界動向についての株式会社マネーパートナーズグループによる現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

これらの将来の展望に関する表明はさまざまなリスクや不確実性がつきまっています。

既に知られたもしくははまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。

株式会社マネーパートナーズグループは将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なるか、さらに悪いこともありえます。

本資料における将来の展望に関する表明は、2018年8月2日現在において利用可能な情報に基づいて、株式会社マネーパートナーズグループにより2018年8月2日現在においてなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。



- I .2019年3月期第1四半期の決算及び事業の概況
- II .2019年3月期第1四半期の重点施策の進捗状況
- III .今後の目指すべき方向性
- IV .当社の経営目標及び株主還元について

I .2019年3月期第1四半期の決算及び事業の概況





2019年3月期第1四半期(2018/4-6) 連結決算の総括とポイント

- ① FX口座数は、外国為替相場低迷の影響もあり前四半期末比4,151口座増加と増加ペースは鈍化。預り証拠金は一般、金融法人とも堅調に増加し、全体では2.1%の増加に。

総口座数	318,698口座	2018/3期4Q末比	1.3%増
預り証拠金	63,050百万円	2018/3期4Q末比	2.1%増

- ② 外国為替取引高は、外国為替相場の変動率の低下に伴い前四半期比大きく減少。

4-6月取引高	3,097億通貨単位	2018/1-3月比	29.2%減
---------	------------	------------	--------

※取引高にはCFDに関する数値を米ドルに換算した上で含めております。

- ③ 営業収益は、システム子会社によるシステム関連売上の増加があったものの、外国為替取引高の減少により、前四半期比5.0%減少の1,534百万円に。

- ④ 経常利益は、外国為替取引高減少に伴う変動費の減少等により費用全体は減少したものの、営業収益減少により前四半期比25.3%減少の277百万円に。
親会社株主に帰属する四半期純利益も前四半期比25.9%減少の188百万円に。



2019年3月期第1四半期 決算概況と影響ファクター

	2018/3期 4Q 【2018/1 ~ 2018/3】	2019/3期 1Q 【2018/4 ~ 2018/6】	前四半期 対比増減
外国為替取引高	4,374億通貨単位	3,097億通貨単位	▲29.2%
営業収益	1,615百万円	1,534百万円	▲5.0%
純営業収益	1,543百万円	1,416百万円	▲8.2%
経常利益	371百万円	277百万円	▲25.3%

【損益影響ファクター】

前四半期比

FX取引高



FX収益性



販管費



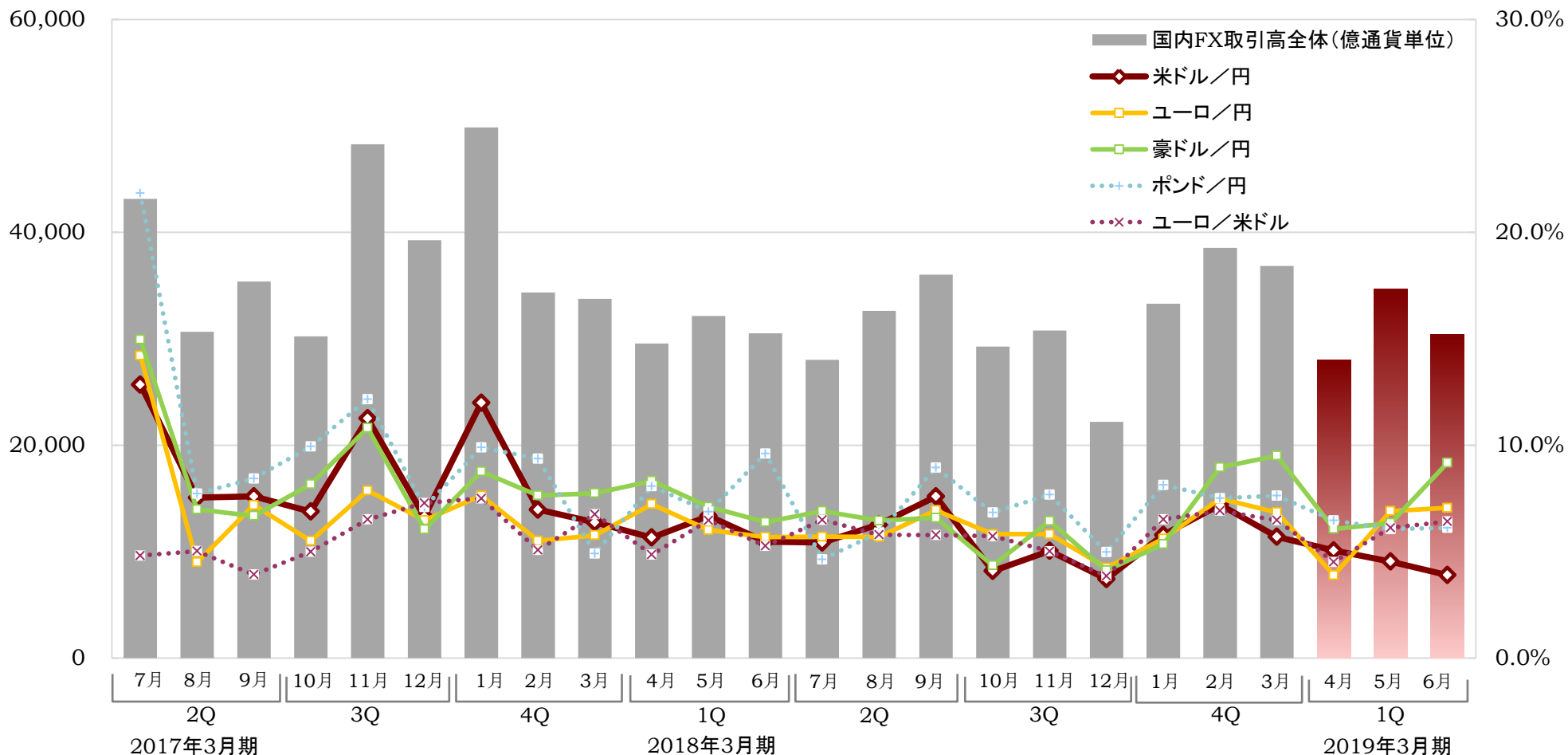
- 外国為替相場の変動率は米ドル／円をはじめ大きく低下。取引高は米ドル／円が前四半期比45%減少するなど、全体として同29%減少。通貨別の内訳は、米ドル／円が52%にまで低下した一方、ユーロ関連通貨ペア等その他の割合が増加。
- 相対的に収益性の低い米ドル／円の割合が低下したこと等から、全体としての収益性は前四半期比向上。
- 取引高増加に伴う変動費の減少等により、販管費全体は前四半期比2.4%減少とほぼ横這いに。



FX市場の動向

Money Partners Group

取引高・主要通貨ペア日次平均ボラティリティの推移



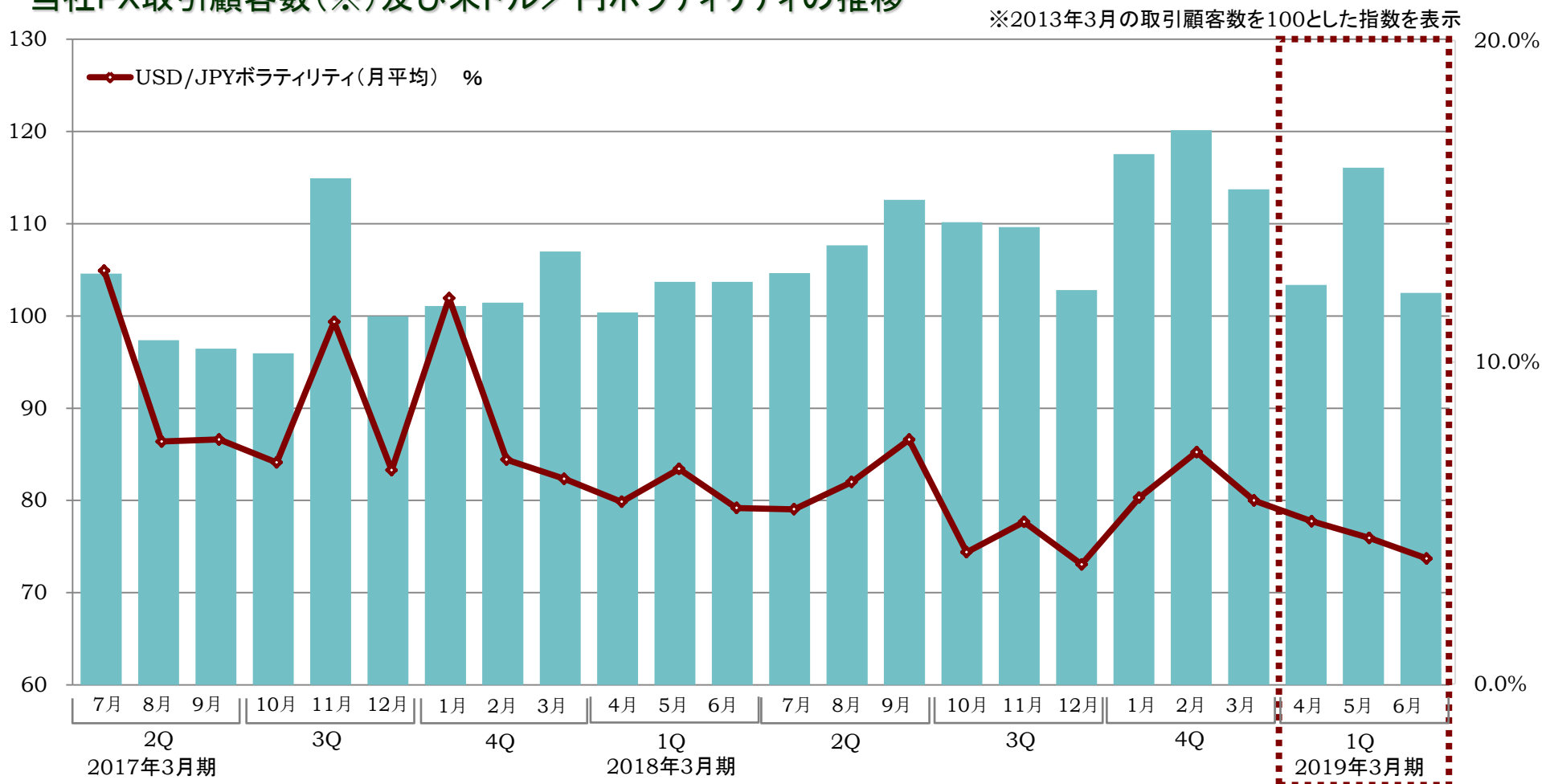
外国為替相場の変動率は、米ドル/円が低調に推移し、全体として前四半期からやや低下。
この結果、四半期ベースの国内FX取引高は前四半期比約14%減少。



取引顧客数の推移

Money Partners Group

■ 当社FX取引顧客数(※)及び米ドル／円ボラティリティの推移



外国為替相場の変動率低下につれ、当社FX取引顧客数も減少。
 2018年3月期以降、相場変動に対するベースの取引顧客数は拡大傾向を維持。



四半期業績推移

Money Partners Group

■ 四半期毎のP/L主要数値推移

単位:百万円

	2017/3期			2018/3期				2019/3期	前四半期 対比増減
	2Q (7月~9月)	3Q (10月~12月)	4Q (1月~3月)	1Q (4月~6月)	2Q (7月~9月)	3Q (10月~12月)	4Q (1月~3月)	1Q (4月~6月)	
営業収益	1,479	1,488	1,392	1,407	1,433	1,573	1,615	1,534	▲5.0%
受入手数料	27	21	26	28	21	25	28	24	▲15.1%
トレーディング損益	1,372	1,397	1,323	1,270	1,362	1,509	1,529	1,403	▲8.2%
金融収益	4	4	9	12	18	16	14	18	22.2%
その他の売上高	75	65	32	95	30	22	41	88	112.2%
金融費用	36	36	38	45	44	45	46	45	▲2.6%
売上原価	53	44	15	79	14	12	25	73	188.4%
純営業収益	1,388	1,407	1,338	1,283	1,374	1,515	1,543	1,416	▲8.2%
販売費・一般管理費	1,142	1,139	1,115	1,176	1,169	1,155	1,169	1,141	▲2.4%
営業利益	246	267	222	106	204	360	373	274	▲26.6%
経常利益	245	278	237	115	215	362	371	277	▲25.3%
税金等調整前四半期純利益	245	265	230	115	215	362	371	277	▲25.3%
親会社株主に帰属する四半期純利益	161	178	155	74	143	247	254	188	▲25.9%
営業収益経常利益率	16.6%	18.7%	17.0%	8.2%	15.0%	23.1%	23.0%	18.1%	

営業収益は前四半期、前々四半期を下回ったものの、2017/3期1Q~2018/3期2Qを上回る15億円台を計上。販売費・一般管理費や営業外収支・特別損益にも大きな変動は無く、営業収益、各利益ともちょうど前期実績の4分の1相当強の実績に。



四半期販管費推移

Money Partners Group

■ 販管費内訳及び主要費目の推移

単位:百万円

	2017/3期			2018/3期			2019/3期	前四半期 対比増減	
	2Q (7月~9月)	3Q (10月~12月)	4Q (1月~3月)	1Q (4月~6月)	2Q (7月~9月)	3Q (10月~12月)	4Q (1月~3月)		1Q (4月~6月)
取引関係費	325	355	357	388	401	387	410	368	▲10.1%
人件費	266	253	256	241	236	246	244	238	▲2.2%
不動産関係費	176	164	161	159	164	155	157	162	3.0%
事務費	235	223	215	228	237	227	227	238	4.9%
減価償却費	93	93	101	113	93	101	88	86	▲2.4%
租税公課	30	36	10	22	23	28	27	22	▲18.5%
貸倒引当金繰入れ	▲0	—	—	—	—	—	—	0	—
その他	13	13	14	22	12	8	13	24	72.5%
販売費・一般管理費合計	1,142	1,139	1,115	1,176	1,169	1,155	1,169	1,141	▲2.4%

(主要な費目)

広告宣伝費(※1)	122	160	154	170	153	141	134	126	▲6.4%
システム関連費用(※2)	335	327	316	316	339	327	328	335	2.5%

※1 取引関係費の一部となります。 ※2 取引関係費、不動産関係費、事務費の一部となります。

<主な増減要因(前四半期との比較)>

取引関係費(減少) : 取引高減少に伴うカバー取引関連の支払手数料減少

事務費(増加) : 次期基幹システム開発を背景としたシステム作業等関連費用の増加

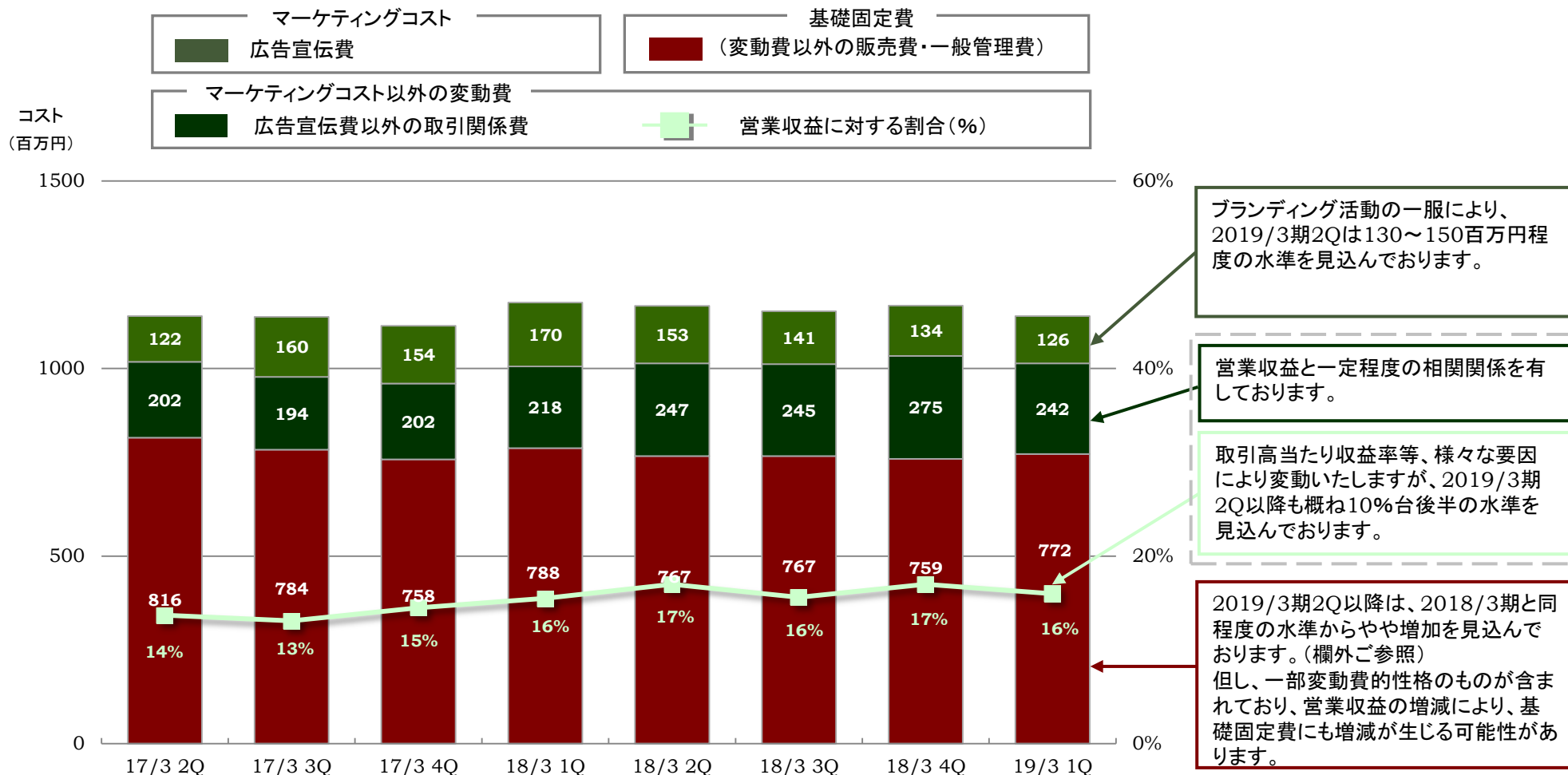
その他(増加) : 定時株主総会開催関連費用(季節性のもの)



四半期固定費・変動費推移と今後の動向

Money Partners Group

■ 主要な固定費・変動費の推移



営業収益変動費（広告宣伝費以外）率は、取引高の増加とともに10%台後半で推移。2019年3月期は、基幹システムの更新を予定しており、移行期間（第2四半期以降）における一時的な固定費増加を見込んでおります。



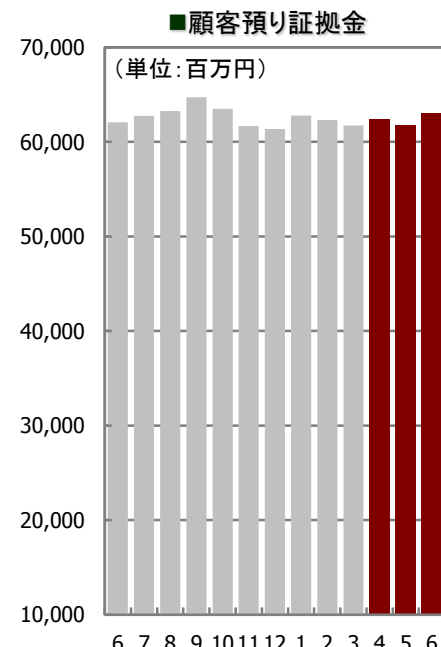
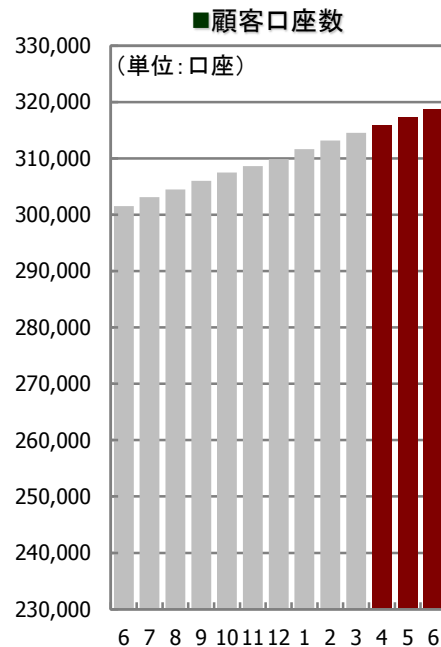
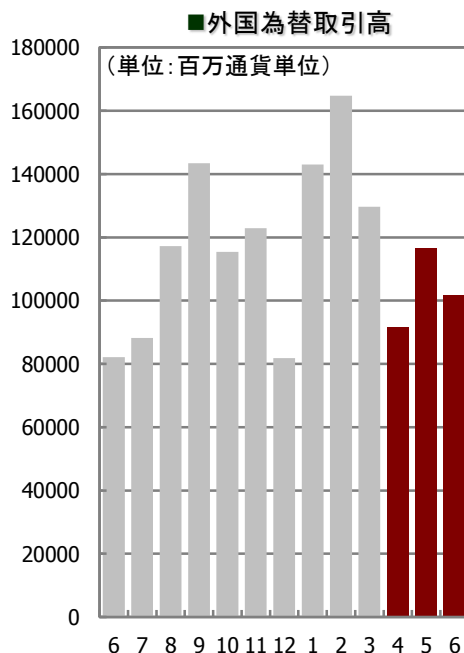
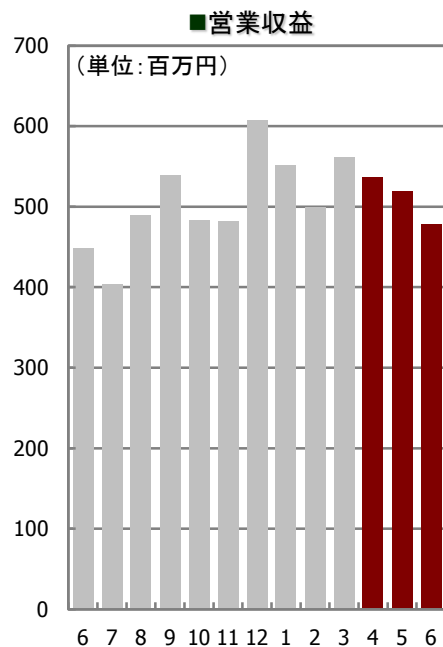
月次業績指標推移

Money Partners Group

■ 月次営業収益、外国為替取引高、顧客口座数、顧客預り証拠金の推移

	2018年3月期										2019年3月期		
	17'6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	18'1月	2月	3月	4月	5月	6月
営業収益(百万円)	449	404	489	539	483	482	607	552	499	562	536	519	478
外国為替取引高 (百万通貨単位)	82,184	88,166	117,248	143,437	115,410	122,896	81,853	142,982	164,784	129,679	91,552	116,599	101,591
顧客口座数(口座)	301,557	303,106	304,509	306,001	307,465	308,647	309,873	311,645	313,167	314,547	315,872	317,341	318,698
顧客預り証拠金(百万円)	62,091	62,774	63,253	64,734	63,512	61,675	61,378	62,789	62,309	61,758	62,379	61,817	63,050
内、一般顧客(BtoB以外)	51,353	52,431	53,410	54,057	55,014	55,820	55,367	57,073	57,628	56,966	57,653	57,015	57,840

※営業収益、外国為替取引高及び顧客預り証拠金には2011年8月より開始したCFDに関する数値を含めております。



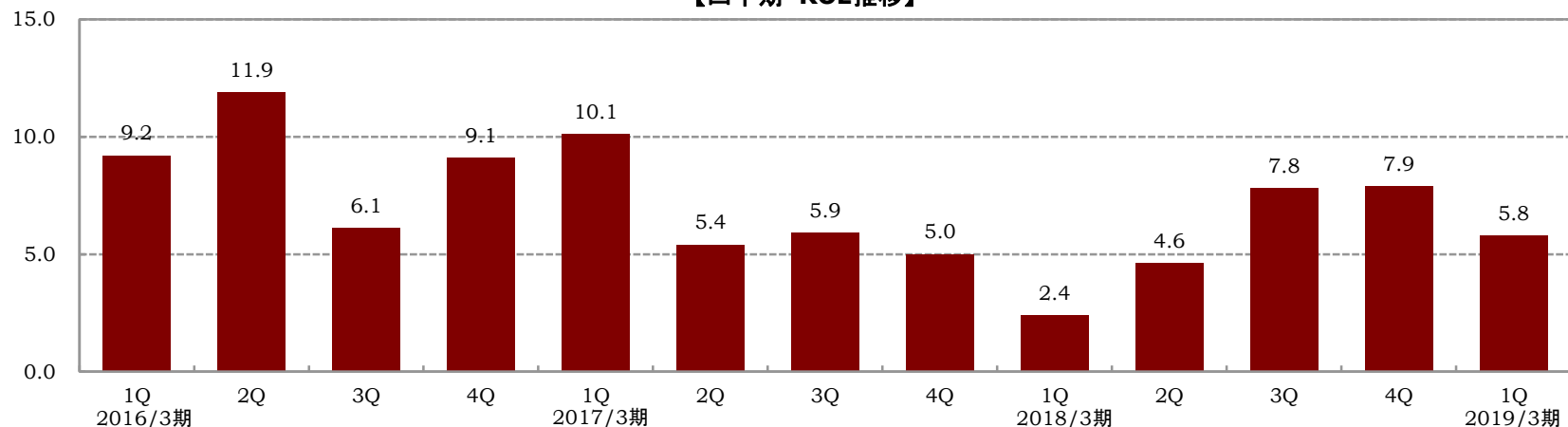


主要経営指標推移

Money Partners Group

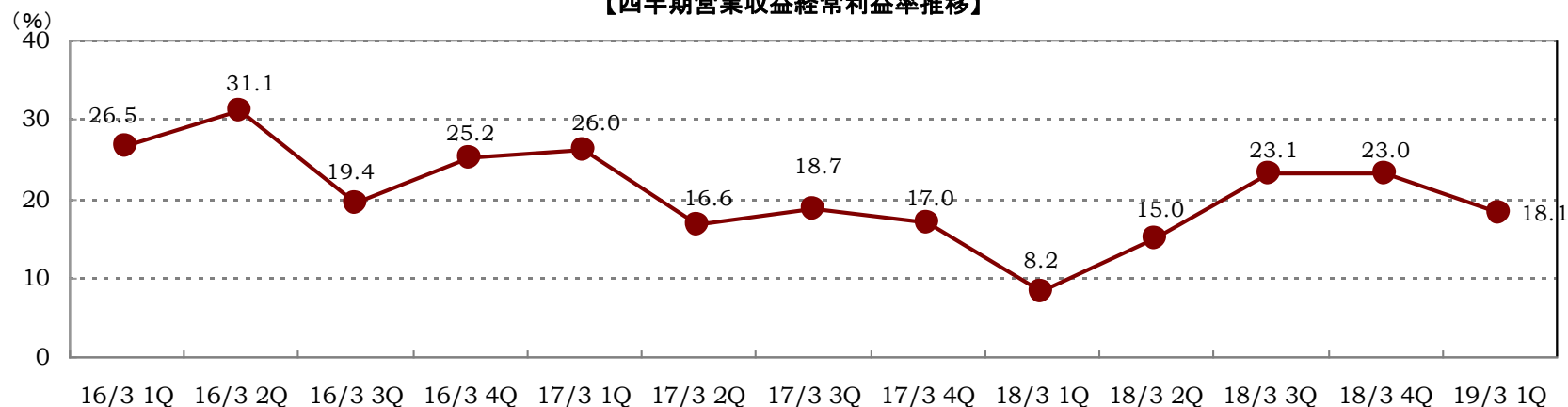
■ ROE及び営業収益経常利益率推移

【四半期 ROE推移】



※: 四半期ROEは、下記計算式により年換算して算出しております。
 $ROE(年換算) = (四半期純利益 \times 4) \div ((四半期期首自己資本 + 四半期期末自己資本) \div 2) \times 100$

【四半期営業収益経常利益率推移】



Ⅱ.2019年3月期第1四半期の重点施策の進捗状況





当社グループの重点施策

重点課題

既存ビジネス

収益力強化

顧客基盤拡大
取引機会創出

新たなビジネス・
サービスの事業化

重点施策

- 実需層の取り込みによる顧客基盤の拡大
- 収益基盤の多様化とFX収益率の更なる向上

実需

- ★ ブランディング及び実需顧客等の取り込み
- ★ カード及び外貨両替サービス利用者層の取り込み

顧客サービス

- ★ 顧客向けサービスの改善
- ★ 新注文・新サービス・新機能の提供

収益

- ★ 収益性の継続的改善



重点施策の進捗状況①

Money Partners Group

ブランディング強化とマス戦略展開による顧客獲得

FX

相場低迷を受けて積極的なキャンペーンを実施



マネパカード

提携サービス開始

関西国際空港を拠点とする格安航空会社であるPeach Aviation株式会社との提携サービス

2018年6月より口座開設受付開始
2018年7月よりサービスイン





重点施策の進捗状況②

Money Partners Group

フィンテック・新技術関連

人工知能

株式会社マネーパートナーズソリューションズと一般社団法人日本ファッションスタイリスト協会は、共同でファッション系AIサービス「Styling Map(R) デジタルスタイリング」を開発し、伊藤忠ファッションシステム株式会社をマーケティングパートナーとして提携

「Styling Map(R) デジタルスタイリング」とは

Styling Map(R)によるスタイリングのノウハウを人工知能(AI)化したオンラインスタイリングサービスです。
使い方はユーザーの顔画像をアップロードするだけです。
(もしくは顔画像とアンケートを組み合わせて個性と好みをマッチングさせたアイテムを提案する事も可能です。)
人工知能(AI)がユーザーの顔画像からユーザーの個性をStyling Map(R)で分析し、その個性に合うアイテムを提案します。
自分専用のスタイリストがいつでもどこでもスタイリングを提案してくれるような感覚をご体験いただけます。

仮想通貨

当社グループにおける
仮想通貨交換業

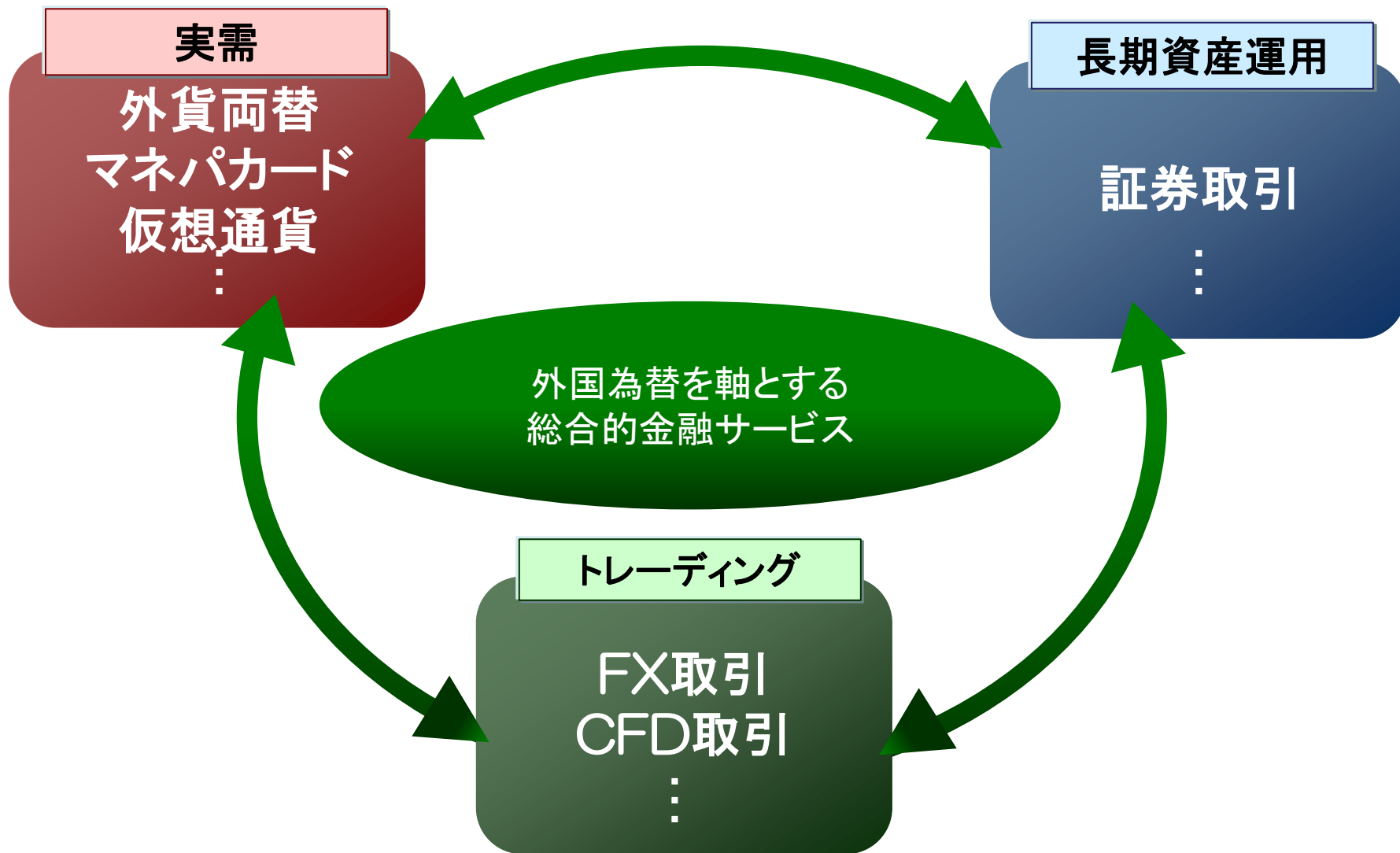
前期末(2018年3月末)から
著しい進捗はなし
(サービス開始時期未定)

7月のG20共同声明において、
FATFに対し10月までに仮想通貨
の国際基準の明確化を要請

引き続き、規制に関する国内外
の環境の変化を見守りつつ、
既存ビジネスへの影響リスクを
低減するための取組みを継続

Ⅲ. 今後の目指すべき方向性





IV. 当社の経営目標及び株主還元について





ROE及び営業収益経常利益率の向上

- 当社は、企業価値の最大化のため自己資本を効率的に活用することを重視しております。
- このために効率的な収益構造の実現を目指して参ります。
- 効率性を計る尺度として、自己資本利益率(ROE)及び営業収益経常利益率を重要な経営指標として位置づけております。

▶ **2019年3月期第1四半期(2018年4~6月)のROEは5.8%**

※: 四半期ROEは、下記計算式により年換算して算出しております。

$ROE(年換算) = (四半期純利益 \times 4) \div ((四半期期首自己資本 + 四半期期末自己資本) \div 2) \times 100$

▶ **2019年3月期第1四半期(2018年4~6月)の営業収益経常利益率は18.1%**



株主還元について

Money Partners Group

業績向上に取り組み、株主利益の向上に努める

配当方針

配当性向 … 連結当期純利益の**30%**を目処

配当機会 … **中間及び期末** (年2回)

	2018年3月期				2019年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
当期純利益(百万円)	74	143	247	254	188			
上段: 3ヶ月	74	218	465	719	188			
下段: 累計								
配当金の総額 (百万円)	81		179					
期末発行済 株式総数(株)	33,779,900 (内、自己株式1,202,300)		33,794,900 (内、自己株式1,202,300)					
1株当たり 配当金	中間・期末	2.5円		5.5円		未定		未定
	年間	8.0円				未定		



取扱い商品に係るリスク及び手数料等について

パートナーズFX、パートナーズFXnanoおよびCFD-Metalsは、取引時の価格またはスワップポイントの変動、およびスワップポイントは支払いとなる場合があることにより、売付時の清算金額が買付時の清算金額を下回る可能性があるため、損失が生じるおそれがあります。また、証拠金の額以上の投資が可能のため、その損失の額が証拠金の額を上回るおそれがあります。売付価格と買付価格とは差額(スプレッド)があります。

取引手数料は無料です。ただしパートナーズFXおよびパートナーズFXnanoの受渡取引に限り、1通貨単位あたり0.10円の手数料をいただきます。

パートナーズFXおよびパートナーズFXnanoの取引に必要な証拠金は、取引の額の4%以上の額で、証拠金の約25倍までの取引が可能です。法人コースの証拠金は、取引の額の4%の額と、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの為替リスク想定比率を取引の額に乗じて得た額のうちいずれか大きい額で、証拠金の約25倍までの取引が可能です。為替リスク想定比率とは、金融商品取引業等に関する内閣府令第117条第27項第1号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。

CFD-Metalsの取引に必要な証拠金は、取引の額の5%以上の額で、証拠金の約20倍までの取引が可能です。国内上場有価証券の売買等に当たっては、最大で約定代金の2.7%の手数料(消費税込み)、最低手数料は取引形態等により異なり最大で2,700円(消費税込み)をいただきます。国内上場有価証券等は、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の価格の変動等および有価証券の発行者等の信用状況(財務・経営状況を含む)の悪化等それらに関する外部評価の変化等を直接の原因として損失が生ずるおそれ(元本欠損リスク)があります。

取引開始にあたっては契約締結前書面を熟読、ご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願い致します。

〈商号〉株式会社マネーパートナーズ(金融商品取引業者・商品先物取引業者)

〈金融商品取引業の登録番号〉関東財務局長(金商)第2028号

〈加入協会〉日本証券業協会 一般社団法人金融先物取引業協会 日本商品先物取引協会

2019年3月期第1四半期 決算説明会



Money Partners Group

株式会社マネーパートナーズグループ